

5. 年表で見る大正時代

<大正元年（1912）>

7月30日 大正改元・嘉仁親王践祚。
11月25日 石井泰助川崎町長が辞任。

<大正3年（1914）>

5月 川崎町で伝染病（ペスト・腸チフスなど）が流行。
7月28日 第一次世界大戦が勃発。
9月16日 アミガサ事件。
9月29日 多摩川築堤期成同盟会が発足。
12月18日 石井泰助が川崎町長に就任（3度目）。

<大正5年（1916）>

7月1日 石井泰助川崎町長が辞任。

<大正6年（1917）>

7月 川崎町第一耕地整理組合が発足（川崎町東南部を対象に工場・住宅用地の造成を目指す）。
8月 川崎町会が水道敷設を議決する。

<大正7年（1918）>

4月 日本国内でインフルエンザが流行。
8月2日 日本がシベリア出兵を宣言。

<大正8年（1919）>

3月1日 三・一独立運動。
5月4日 五・四運動。
6月28日 ヴェルサイユ条約締結。

<大正9年（1920）>

1月10日 国際連盟が発足。

<大正10年（1921）>

7月 川崎町の通水開始。
11月4日 原敬首相暗殺事件。
11月12日 ワシントン軍縮会議の開催。
12月13日 四ヶ国条約の締結（日英同盟の破棄）。

<大正11年（1922）>

12月 ソビエト連邦（ソ連）が成立。

<大正12年（1923）>

9月1日 関東大震災。

<大正13年（1924）>

7月1日 川崎市が成立。
10月6日 川崎市長選挙。

<大正14年（1925）>

3月 ラジオ放送が開始。治安維持法が成立。
5月5日 衆議院普通選挙法が公布。
5月10日 中原村・住吉村が合併（中原町）。

<大正15年／昭和元年（1926）>

12月25日 大正天皇が崩御。

お問い合わせは・・・川崎市公文書館 まで

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1

電話 044-733-3933 FAX. 044-733-2400

E-mail 17koubun@city.kawasaki.jp

ホームページ「川崎市公文書館」で検索

川崎市公文書館特設コーナー

「川崎市誕生の時代を学ぼう！」



初代川崎市長・石井泰助

* * * * *

川崎市制100周年。大正13年（1924）7月1日に誕生した川崎市は今年で100周年を迎えます。今回の特設コーナーでは、川崎市が誕生した大正時代の歴史をテーマにしました。

これから生きるために、これまでを知る。ぜひ関連文献を手にとって大正時代を学びきっかけにいただければと思います。

令和6年(2024)1月4日
川崎市公文書館

1. 大正時代の日本と世界

大正時代の日本は「護憲運動」の発生からスタートした。立憲政治を守るという名目のもとで第3次桂太郎内閣が退陣を余儀なくされた。中国大陸は中華民国の成立以後も政治的に不安定であったが、日本は中華民国を承認した。そんな中で第一次世界大戦（1914～18）が勃発する。さらには、ロシア革命が勃発し、ロマノフ王朝が崩壊してソビエト政権が成立する。シベリア出兵の影響により米価が高騰したことで日本では米騒動が発生した。戦時期においてインフルエンザが大流行したのもこの頃である。

大正12年（1923）には関東大震災が発生し多大なる被害が発生した。

大正時代は世界的な動乱が拡大し、日本国内でも多くの衝撃的な事件が発生している。原敬首相暗殺事件、虎ノ門事件、甘粕事件などである。また、大正時代はアジア・太平洋戦争後に定着することになる「政党政治」が形成されていく時期でもある。

そして、大正時代を象徴するのは「民衆の力」である。日本では護憲運動、ロシアでは革命、中国では五・四運動、朝鮮では独立運動のように世界中で「民衆の力」が政治的に大きな影響を与えていった。

2. 何故、川崎市は成立したのか～水と生命～

川崎町が石井泰助などを中心に計画頓挫を乗り越えて水道敷設工事に着手したのは大正8年（1919）であった。大正10年（1921）に川崎町の水道が完成し、翌年には大師河原村・御幸村へ町外給水が行われた。このように川崎町を中心とする水の配給によって合併の気運が高まっていた。元御幸村長の鳥養仁一などが合併論を唱えていたが、大正12年（1923）に関東大震災が発生することで合併論に拍車がかかった。

大正13年（1924）7月1日、遂に川崎町・大師町・御幸村が合併して「川崎市」が誕生した。

人々が一つにまとめるのは、何かしらの危機的状況が到来した時である。川崎市誕生の契機は水という生命の源が平等に分配されることを保障するためであった。

3. 初代川崎市長・石井泰助

初代川崎市長の石井泰助は慶応元年（1865）に川崎宿の材木商に生まれた。川崎町会議員に当選し、明治30年（1897）には川崎町長に就任する。川崎町が積極的な工場招致策をとりはじめると、大地主でもあった石井は所有地を坪1円という廉価で企業に提供することで川崎町に工場を招致していった（このとき、石井は川崎町長の職からは離れていた）。大正13年（1924）7月に川崎市が誕生し、10月には川崎市会にて市長第一候補者として選定されて正式に初代川崎市長に就任する。川崎市長として市の生活基盤を整備するために奔走していたが、昭和4年（1929）3月に病気を理由として市長を辞職する。昭和6年（1931）7月11日、死去。

4. 大正13年と令和6年～川崎市制100周年～

大正13年（1924）7月1日に川崎市制がスタートして今年で100周年を迎えます。市制の始まりは水道インフラの整備がきっかけでした。よりよい生活を求めて一つにまとまることを決めた川崎市はこの100年間に各町村との合併や沿岸部の編入を実施して現在の市域が出来上がりました。

令和6年（2024）の現在、川崎市は特別自治市を目指すなど新たな動きを起こしています。

大正時代と令和時代は共通項がいくつも考えられます。未知なる流行病（インフルエンザとコロナウイルス）やロシアの戦争（ロシア革命とウクライナ戦争）…。歴史を見て考えていくことは、これから生きる人間にとっての責務かもしれません。

これからの世界、日本、そして川崎市が平和であるように私たち一人一人が歴史を学んでいきましょう。

